

## 国立民族学博物館研究報告 vol.17-4; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	17
号	4
発行年	1993-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009199">http://hdl.handle.net/10502/00009199</a>

1992—17<sub>卷</sub>4<sub>号</sub>

# 国立民族学博物館 研究報告



An Areal-Typological Study of Phonological Systems  
of Middle American Indian Languages——Yoshiho Yasugi

現代韓国社会における〈伝統文化〉の研究の現状と展望——朝倉敏夫

An Observation on the Genesis and Development  
of Tibeto-Burman Tones——Dai Qingxia



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL.06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

---

17 卷 4 号

1992 年

---

## 目 次

An Areal-Typological Study of Phonological Systems of Middle American Indian Languages .....	Yoshiho Yasugi.....627
現代韓国社会における〈伝統文化〉の研究の現状と展望 .....	朝倉敏夫.....809
An Observation on the Genesis and Development of Tibeto-Burman Tones .....	Dai Qingxia.....851
彙 報 .....	879
国立民族学博物館研究報告 17巻 総目次 .....	888
国立民族学博物館研究報告寄稿要項 .....	889
国立民族学博物館研究報告執筆要領 .....	890

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 17 No. 4

1992

---

- YASUGI, Yoshiho            An Areal-Typological Study of Phonological  
Systems of Middle American Indian Languages..... 627
- ASAKURA, Toshio            The Present Situation and Prospect of the Study of  
“Traditional Culture” in Modern Korean Society ... 809
- DAI, Qingxia                 An Observation on the Genesis and Development of  
Tibeto-Burman Tones ..... 851

彙 報 (平成4年10月～平成4年12月)

シンポジウム

◎特別研究「20世紀における諸民族文化の伝統と変容シンポジウムⅠ 20世紀の音」

期間 平成4年10月21日(水)～23日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回は、「20世紀の音」をテーマに、さまざまな地域や民族における音にまつわる文化が20世紀をつうじてどのように変化してきたかをめぐり、討論をおこなう。

シンポジウム委員会

実行委員長

櫻井 哲男 国立民族学博物館第五研究部

実行委員

栗田 靖之 国立民族学博物館第二研究部

近藤 雅樹 国立民族学博物館第一研究部

庄司 博史 国立民族学博物館第三研究部

事務局

佐々木幹夫 国立民族学博物館管理部研究協力課国際協力係

新見 惇一 国立民族学博物館管理部研究協力課共同利用係

今田 好子 「20世紀」事務局

報告者

大塚 和夫 東京都立大学

大森 康宏 国立民族学博物館

小川 博司 桃山学院大学

許 常 惠 台湾師範大学(台湾)

金 宅 圭 嶺南大学校(韓国)

熊倉 功夫 国立民族学博物館

小長谷有紀 国立民族学博物館

櫻井 哲男 国立民族学博物館

高田 公理 武庫川女子大学

塚田 健一 宮崎大学

中川 真 京都市立芸術大学

山下 晋司 東京大学

山田 陽一 島根大学

吉村 弘 武蔵野美術大学

渡辺 裕 大阪大学

討論参加者

石毛 直道 国立民族学博物館

石森 秀三 国立民族学博物館

梅棹 忠夫 国立民族学博物館

中牧 弘允 国立民族学博物館

端 信行 国立民族学博物館

藤井 知昭 国立民族学博物館

日程

10月21日(水)

(司会:端 信行)

11:15 あいさつ 石毛 直道

11:20 問題提起 櫻井 哲男

(司会:石森 秀三)

13:00 技術と音 高田 公理

13:35 映像にかかわる音の世界

大森 康宏

(司会:中牧 弘允)

15:15 マス・メディアと音楽

小川 博司

15:50 現代における聴取体験の変容

渡辺 裕

16:30 討論

10月22日(木)

(司会:端 信行)

10:00 20世紀におけるアフリカ音楽文化

の変貌 塚田 健一

10:35 パプアニューギニアの音の変容

——「霊のうた」と「ニューギニ・

ポップ」 山田 陽一

(司会:石森 秀三)

13:00 コーランと宗教歌——イスラーム

の音と近代におけるその変容——

大塚 和夫

13:35 モンゴル草原にひびく音

小長谷有紀

14:15 討論

(司会:藤井 知昭)

15:15 20世紀における韓国の音の文化の

- 変遷——パンソリの伝承と変容を  
中心に—— 金 宅 圭  
15:50 台湾の音楽 許 常 恵  
16:30 討 論
- 10月23日 (金)  
(司会：端 信行)
- 10:00 都市の音 吉村 弘  
10:35 ベルリンの音の諸相 中川 真  
11:15 討 論  
(司会：中牧 弘允)
- 13:00 近世の音——鳴物の世界  
熊倉 功夫  
13:35 討 論  
(代読：大森 康宏)
- 14:20 20世紀インドネシアのポピュラー  
音楽——社会の変化をしるす音  
山下 晋司  
(司会：櫻井 哲男)
- 14:40 総括討論
- ◎特別研究「アジア・太平洋地域における民  
族文化の比較研究——第4回シンポジウム  
再生する宗教」  
期間 平成4年11月24日(火)～27日(金)  
場所 国立民族学博物館  
シンポジウム実行委員会  
実行委員長  
田辺 繁治 国立民族学博物館第二研究  
部  
実行委員  
秋道 智彌 国立民族学博物館第一研究  
部  
朝倉 敏夫 国立民族学博物館第四研究  
部  
佐藤 浩司 国立民族学博物館第四研究  
部  
清水 昭俊 国立民族学博物館第四研究  
部  
(事務局長)  
須藤 健一 国立民族学博物館第四研究  
部  
田村 克己 国立民族学博物館第二研究  
部

- 長野 泰彦 国立民族学博物館第五研究  
部  
宮本 勝 国立民族学博物館第二研究  
部  
杉島 敬志 国立民族学博物館第二研究  
部
- 事務局  
佐々木幹夫 国立民族学博物館管理部研  
究協力課国際協力係  
古口 順子 『アジア・太平洋』事務局  
報告者  
池上 良正 筑波大学哲学思想学系  
ニコラス・タupp  
エディンバラ大学社会人類  
学科  
田中 雅一 京都大学人文科学研究所  
田辺 繁治 国立民族学博物館  
田村 克己 国立民族学博物館  
ティモシー・ツー  
シンガポール国立大学日本  
研究学科  
ティラユット・ブンミー  
タマサート大学社会学人類  
学部  
ティモシー・フィッツジェラルド  
愛知学院大学文学部  
福島 真人 東京大学東洋文化研究所  
グスターフ・ホウトマン  
マンチェスター大学社会人  
類学科  
三尾 裕子 東京外国語大学アジア・ア  
フリカ言語文化研究所  
山下 晋司 東京大学教養学部  
レイモンド・リー  
マラヤ大学人類学社会学部
- 討論者  
今村 仁司 東京経済大学経済学部  
大塚 和夫 東京都立大学人文学部  
佐々木高明 国立民族学博物館  
清水 展 九州大学教養部  
秀村 研二 明星大学  
ヤン・ファン・ブレーメン

ライデン大学文学部

宮本 勝 国立民族学博物館

日 程

11月24日 (火)

(座長：藤井 知昭)

9:30 参加者登録

開会式

館長あいさつ 梅棹 忠夫

運営委員長あいさつ 佐々木高明

(座長：宮本 勝)

11:00 問題提起 田辺 繁治

中国における宗教復興の戦略——

広東州東部の梅县と蕉岭の事例——

ティモシー・ツー

(座長：清水 昭俊)

13:30 賭事と神々——台湾漢人の民間信

仰における霊的存在の動態——

三尾 裕子

タイ・雲南周縁地域におけるモン

族のメシアニズム

ニコラス・タップ

16:45 討 議

11月25日 (水)

(座長：ニコラス・タップ)

9:30 内観冥想と集中瞑想——ビルマの

仏教慣行はいかに政治的か？——

グスターフ・ホウトマン

仏教の周縁にあって——ビルマの

ナットとガイン—— 田村 克己

精霊祭祀の再構築——北タイにお

ける職業的霊媒—— 田辺 繁治

(座長：山下 晋司)

13:45 タイにおける宗教再生と市民社会

の出現 ティラユット・ブンミー

コスモスの馴化——マレーシアに

おける宗教，呪術およびモダニテ

ィ—— レイモンド・リー

11月26日 (木)

(座長：レイモンド・リー)

9:30 ダルマ・バクティ・近代法

田中 雅一

インド・マハーラシュトラの仏教

——個人主義かカースト・アイデ  
ンティティか？——

ティモシー・フィッツジェラルド

(座長：池上 良正)

12:45 儀礼(的)秩序の語用論について

——ジャワにおけるミクロの社会

構成とその変容—— 福島 真人

宗教の脱構築——インドネシアに

おける都市化と観光開発のなかの

宗教—— 山下 晋司

(座長：田中 雅一)

現代産業社会における救済論的課

題と宗教体系の再編——沖縄の聖

霊主義的キリスト教会を事例とし

て—— 池上 良正

討 議

11月27日 (金)

(座長：田村 克己)

9:30 現代韓国社会におけるキリスト教

と伝統文化 秀村 研二

アキノ政権とフィリピン・カトリ

シズムの再臨 清水 展

オセアニアの近代 清水 昭俊

イスラーム復興と「近代」

大塚 和夫

社会形成における宗教の役割

今村 仁司

(座長：田辺 繁治)

14:00 統合討論

◎民族学部門第16回国際シンポジウム「アン  
デス祭祀伝統の起源と現在」

日時 平成4年12月2日(水)～9日(水)

場所 国立民族学博物館 求是荘

摘要 今回のシンポジウムでは、現在にい  
たる中央アンデスの文化史のなかで  
宗教が担ってきた役割りについて討  
論をおこなう。

組織委員会

(委員長)

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

(委 員)

佐々木高明 国立民族学博物館副館長  
 藤井 知昭 国立民族学博物館第一研究  
 部長  
 石毛 直道 国立民族学博物館第二研究  
 部長  
 杉村 棟 国立民族学博物館第三研究  
 部長  
 友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究  
 部長  
 杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究  
 部長  
 内藤 貞 国立民族学博物館管理部長  
 実行委員会  
 (委員長)  
 大貫 良夫 東京大学教養学部教授  
 国立民族学博物館第五研究  
 部客員教授  
 (副委員長)  
 藤井 龍彦 国立民族学博物館第五研究  
 部教授  
 (委員)  
 八杉 佳穂 国立民族学博物館第四研究  
 部助教授  
 山本 紀夫 国立民族学博物館第四研究  
 部助教授  
 吉田 憲司 国立民族学博物館第四研究  
 部助手  
 岩本 義男 国立民族学博物館研究協力  
 課長  
 湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務  
 理事  
 宇治日出二郎 財団法人千里文化財団常  
 務理事  
 参加者  
 Richard Burger  
 イェール大学教授  
 (アメリカ合衆国)  
 Carlos Elera ラ・ナシオン博物館  
 (ペルー)  
 Luis Millones  
 国立人類学考古学博物館  
 (ペルー)

Thomas Pozorski  
 パン・アメリカン大学助教  
 授  
 Shelia Pozorski  
 パン・アメリカン大学助教  
 授 (アメリカ合衆国)  
 Scott Raymond  
 カルガリ大学助教授  
 (アメリカ合衆国)  
 Gary Urton コルゲイト大学教授  
 (アメリカ合衆国)  
 大貫 良夫 東京大学教養学部教授  
 国立民族学博物館客員教授  
 加藤 泰建 埼玉大学教養学部教授  
 関 雄二 東京大学総合研究資料館助  
 手  
 友枝 啓泰 国立民族学博物館教授  
 藤井 龍彦 国立民族学博物館教授  
 松本 亮三 東海大学文学部助教授

日 程

平成4年12月2日(水)~12月9日(水)  
 12月2日(水)(千里阪急ホテル)  
 17:00 登録  
 12月3日(木)(国立民族学博物館)  
 13:20 開会式  
 第1セッション  
 「Ceremonialismo en el Periodo Formativo」  
 (座長: L. Millones)  
 14:00 El Ceremonialismo en el For-  
 mativo en la Cuenca del Alto  
 Huallaga 大貫 良夫  
 14:45 討 論  
 15:35 館内見学  
 12月4日(金)(国立民族学博物館)  
 第2セッション  
 「Ceremonialismo en la Costa Norte」  
 (座長: 友枝 啓泰)  
 10:00 Early Complex Society in the  
 Casma and Moche Valleys of Peru  
 Thomas & Shelia Pozorski  
 (座長: 藤井 龍彦)  
 10:50 Origen y Aspectos Colaterales del



- Ceremonialismo, Simbolismo y Ritual Cupisnique: Un Enfoque Preliminar Carlos Elera
- 11:50 討 論  
第3セッション  
「Centro Ceremonial en el Valle de Cajamarca」 (座長: R. Burger)
- 14:30 Dos Modos de Proceso Socio-cultural: El Horizonte Temprano y el Período Intermedio Temprano en el Valle de Cajamarca 松本 亮三 (座長: S. Pozorski)
- 15:20 La Transformación de los Centros Ceremoniales del Periodo Formativo Tardío en la Cuenca de Cajamarca, Perú 関 雄二
- 16:20 討 論  
12月5日(土)(国立民族学博物館)  
第4セッション  
「Intercambio y Transformación de la Ideología」 (座長: C. Elera)
- 10:00 Resultado de las Excavaciones en Kuntur Wasi, Cajamarca 加藤 泰建 (座長: G. Urton)
- 10:50 Religion Andina: Cambio y Continuidad 藤井 龍彦
- 11:50 討 論  
12月7日(月)(求是荘)  
第5セッション  
「Ceremonialismo andino: Perspectiva Histórica」 (座長: T. Pozorski)
- 10:00 Ceremonialism in Formative Ecuador Scott Raymond
- 10:45 討 論 (座長: 加藤 泰建)
- 13:00 Los Ritos de los Camélidos y la Ceremonia de Situa 友枝 啓泰 (座長: S. Raymond)
- 13:50 Representando el Pasado: Desfiles, Disfraces y Máscaras de los

- Andes Luis Millones
- 14:50 討 論  
12月8日(火)(求是荘)  
第6セッション  
「Organización Dual y Complementaridad」 (座長: 松本 亮三)
- 10:00 Moieties and Ceremonialism Gary Urton (座長: 関 雄二)
- 10:50 The Dual Organization of the Initial and Formative Period Religious Ritual in the Central Andes Richard Burger
- 11:50 討 論  
14:30 総合討論 (座長: L. Millones, 大貫 良夫)
- 17:00 閉会式  
12月9日(水)(求是荘)  
10:00 ワークショップ  
解散

◎文明学部門第11回国際シンポジウム「近代世界における日本文明——娯楽の比較文明学——」  
日時 平成4年12月13日(日)～20日(日)  
場所 国立民族学博物館  
摘要 今回のシンポジウムでは、いまや大衆化し、日常化した娯楽を社会のシステムとして多面的にとらえ、比較文明学の立場から討議をおこなう。

組織委員会

(委員長)

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

(委員)

- 佐々木高明 国立民族学博物館副館長  
藤井 知昭 国立民族学博物館第一研究部長  
石毛 直道 国立民族学博物館第二研究部長  
杉村 棟 国立民族学博物館第三研究部長  
友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究部長

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究  
部長

内藤 貞 国立民族学博物館管理部長  
(専門委員)

Josef Kreiner ドイツ日本研究所所長

Harumi Befu スタンフォード大学教授

実行委員会  
(委員長)

熊倉 功夫 国立民族学博物館第一研究  
部教授

(委員)

中牧 弘允 国立民族学博物館第一研究  
部助教授

小長谷有紀 国立民族学博物館第一研究  
部助手

近藤 雅樹 国立民族学博物館第一研究  
部助手

栗本 英世 国立民族学博物館第三研究  
部助手

朝倉 敏夫 国立民族学博物館第四研究  
部助手

岩本 義男 国立民族学博物館研究協力  
課長

湯浅 毅子 財団法人千里文化財団専務  
理事

宇治日出二郎 財団法人千里文化財団常  
務理事

参加者

Anne Allison デューク大学助教授

Harumi Befu スタンフォード大学教授

Andrew Gerstle  
オーストラリア国立大学教  
授

Josef Kreiner ドイツ日本研究所所長

Sepp Linhart ウィーン大学日本文化研究  
所教授

Brian Powell オックスフォード大学ケベ  
ル・カレッジ教授

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

鵜飼 正樹 甲南大学非常勤講師

奥野 卓司 甲南大学助教授

神崎 宣武 神崎研究室主宰

熊倉 功夫 国立民族学博物館教授

近藤 雅樹 国立民族学博物館助手

吉見 俊哉 東京大学社会情報研究所助  
教授

日 程

12月13日 (日) (千里阪急ホテル)

17:00 登 録

12月14日 (月) (国立民族学博物館)

10:00 館内見学

11:30 館長表敬訪問

13:00 開会式 (司会:熊倉 功夫)

13:10 参加者紹介

13:40 基調講演  
梅棹 忠夫 (代読:中牧 弘允)

第1セッション  
(座長:熊倉 功夫)

15:00 会社のエンターテイメント——遊  
びと仕事の混合——  
Anne Allison

16:00 討 論

12月15日 (火) (国立民族学博物館)

第2セッション  
(座長:熊倉 功夫)

10:00 日本近代演劇の一特徴  
Brian Powell

11:00 討 論

第3セッション  
(座長:Harumi Befu)

13:00 アマチュアと劇場——白痴の芸術  
といわれる義太夫——  
Andrew Gerstle

14:00 討 論

第4セッション  
(座長:Harumi Befu)

15:30 近代芸能とパトロン——近代数寄  
者と伝統芸能—— 熊倉 功夫

16:30 討 論

12月16日 (水) (国立民族学博物館)

第5セッション  
(座長:奥野 卓司)

10:00 人間ポンプと昭和 鵜飼 正樹

11:00 討 論

彙 報

第6セッション

(座長：吉見 俊哉)

(座長：近藤 雅樹)  
 13:00 戦前期日本におけるマス・イベントの形成 吉見 俊哉  
 14:00 討 論

15:30 娯楽とテクノロジー 奥野 卓司  
 16:30 討 論

12月19日(土)(国立民族学博物館)

第10セッション

(座長：神崎 宣武)

12月18日(金)(国立民族学博物館)

第7セッション

(座長：Josef Kreiner)

10:00 日本における拳の比較文化的研究  
 Sepp Linhart

10:00 靈感少女考 近藤 雅樹  
 11:00 討 論

総合討論

(座長：熊倉 功夫)

11:00 討 論

13:30 討 論

第8セッション

(座長：Josef Kreiner)

13:00 的当てと景品引き 神崎 宣武  
 14:00 討 論

17:00 閉会式

12月20日(日)(千里阪急ホテル)

9:30 ワークショップ

解散

第9セッション

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官 職	出 発	帰 国	行 先
石毛 直道	教 授 (第二研究部)	4.10. 9	4.10.12	大韓民国
庄司 博史	助教授 (第三研究部)	4.10.10	4.10.18	フィンランド
長野 泰彦	助教授 (第五研究部)	4.10.14	4.10.20	アメリカ合衆国
松原 正毅	教 授 (第一研究部)	4.10.20	4.12. 1	トルコ
朝倉 敏夫	助 手 (第四研究部)	4.10.26	4.10.31	大韓民国
林 行夫	助 手 (第二研究部)	4.11. 1	4.12.31	タイ, ラオス
熊倉 功夫	教 授 (第一研究部)	4.11. 2	4.11.14	中華人民共和国
端 信行	教 授 (第三研究部)	4.11. 2	4.12.23	フランス, カメルーン
中牧 弘允	助教授 (第一研究部)	4.11.10	4.12.26	ネパール
南 真木人	助 手 (第三研究部)	4.11.12	4.12.26	ネパール
松澤 員子	教 授 (第一研究部)	4.11.14	4.11.21	中華人民共和国
長野 泰彦	助教授 (第五研究部)	4.11.18	4.11.27	中華人民共和国
福井 勝義	助教授 (第三研究部)	4.11.19	4.12.17	連合王国, ケニア, エチオピア, スーダン
立川 武蔵	教 授 (第二研究部)	4.11.21	4.11.25	中華人民共和国
大森 康宏	助教授 (第五研究部)	4.11.30	4.12.10	イタリア, スイス, フランス
黒田 悦子	教 授 (第四研究部)	4.12.10	5. 2.10	メキシコ
松澤 員子	教 授 (第一研究部)	4.12.17	5. 1. 6	台湾
田辺 繁治	助教授 (第二研究部)	4.12.18	5. 1.25	タイ

来館者抄

10月3日 上海市友好代表团一行  
 陳 至 立 (中国, 上海市人民  
 対外友好協会特別顧問・上海市

市長代理) 団長

趙 雲 俊 (中国, 上海市人民  
 対外友好協会会長) 副団長  
 華 建 敏 (中国, 上海市計画

- 委員会副主任)
- 陳 継 虔 (中国, 上海海関関長 (税関長))
- 林 起 章 (中国, 上海市人民政府研究室副主任)
- 施 大 畏 (中国, 上海中国画院副院長)
- 区 福 栄 (中国, 豫園旅游商城股份有限公司総経理)
- 繆 国 琴 (中国, 陳至立秘書)
- 張 雪 娜 (中国, 上海市人民对外友好協会副処長)
- 董 強 (中国, 解放日報社記者)
- 10月6日 権 泰 煥 (大韓民国, ソウル大学校地域総合研究所長) 夫妻
- 10月9日 LONNROTH, Lars (スウェーデン, スヴェンカ・ダークブラーデット紙文化部長) 夫妻
- 10月13日 オーストラリア副学長会議一行  
ARNOLD, Nell (クイーンズランド工科大学, マーケティング・宣伝・広報学部長)
- GERSTLE, Drew (オーストラリア国立大学, アジア研究学部長)
- GHOSH, Robin (西オーストラリア大学, 経済学部長・日本研究所所長代理)
- MARRIOT, Helen (モナッシュ大学, 日本学教授)
- SPENCER, Brian (マッコーリー大学, 登録官・副学長)
- CHOW, Misuzu (マッコーリー大学, 日本研究学術部長)
- WATSON, Andrew (アデレード大学, アジア学教授・アジア研究センター所長)
- SCUTT, John (オーストラリア副学長会議, 国際関係, 所長)
- 10月15日 SAN, Win (ミャンマー, 文化省考古学局研究員)
- 10月23日 FICKEL, Ulrich (ドイツ, テュー
- リンゲン州学術文化大臣)
- MAY, Prue (オーストラリア, オーストラリア博物館プロジェクト・オフィサー)
- 10月26日 KOMELI, Jane O. (アメリカ合衆国, 日本文化センター 歴史ギャラリー委員会委員長) 夫妻
- 10月27日 PASINLI, Alpay (トルコ, イスタンブール考古学博物館館長)
- 10月29日 GYORGY, Balazn (ハンガリー, 国立ハンガリー農業博物館研究部長) 夫妻
- 大阪府招聘韓国情報文化センター第3次 日本地域情報化視察団一行
- 11月2日 KAEWDANNG, Rung (タイ, 教育省国家文化委員会事務総長) 夫妻
- 11月6日 DALRYMPLE, Rawdon (駐日オーストラリア大使) 夫妻
- KLLICK, Evelyn (オーストラリア大使館二等書記官)
- 11月12日 鈴木 和美 (国立歴史民俗博物館展示課視聴覚係長)
- 加川 泰良 (同館庶務課人事係)
- 姫野 深雪 (同館展示課展示係)
- 11月15日 FATIN, Wendy (オーストラリア, 芸術・特別地域大臣)
- 11月21日 BERTALAN, Andrasfalvi (ハンガリー, 文化教育大臣)
- 11月30日 東南アジア青年招聘計画ミャンマー政府関係者一行
- ウ・チ・トゥン (ミャンマー, 外務省経済局課長補佐)
- テイ・ナイン大尉 (ミャンマー, 国防省参謀本部)
- ウ・ゾー・ウ・ハン (ミャンマー・通信・郵便・電報省郵便電話公社係長)
- ドォ・ウイン・チ (ミャンマー, 公務員中央研修所経済学部講師)

彙 報

トゥン・ミン (ミャンマー情報  
省情報出版局課長補佐)

ウ・チッ・ウー (ミャンマー,  
林業省国土地理局係長)

ウ・フラ・ミョウ・アウン (ミ  
ャンマー, 鉄道省ミャンマー鉄  
道公社技師)

ウ・ティ・ミン (ミャンマー,  
文化省博物館副館長)

12月10日 LEE, Song Won (大韓民国, 文  
化部調査課長)

PARK, Chang Gun (大韓民国,  
文芸振興院芸術資料課長)

PARK, Sok Bong (大韓民国, 文  
芸振興院)

12月14日 RAVEN, Peter Hamilton (アメリ  
カ合衆国, ミズーリ植物園長)

韓国国立民俗博物館一行

馬 聖 培

朴 賛 郁

千 鎮 基

鄭 洪 鎮 (以上大韓民国)

12月21日 NAKAYAMA, Masao (駐日ミク  
ロネシア連邦大使) 夫妻

NAICHI, James A. (公使)

FRITZ, John (第一書記官)

---

国立民族学博物館研究報告 17巻 総目次

---

17巻1号

山下 晋司：「劇場国家」から「旅行者の楽園」へ ——20世紀バリにおける「芸術-文化システム」としての観光——	1
松田 凡：採取民コエグの歌とダンス ——エチオピア西南部，オモ川下流平原の民族間関係——	35
稗田 乃：コエグの人と魚 ——環境認識の習得——	97
Tomoya Akimichi：The Surviving Whale-Tooth: Cultural Significances of Whale Products in Oceania	121
Luis Millones：La Danza de la Degollación del Inca	143
Hiroyasu Tomoeda	

17巻2号

塚田 誠之：チュワン族の年中行事に関する史的考察 ——成立過程を中心に——	169
尹 绍 亭：基诺族の刀耕火种 ——兼与云南其它刀耕火种民族的比较——	253
瀬川 昌久：香港新界における宗族の発展と墓地風水 ——族譜を通じた分析——	305
高橋 慶治：現代チベット語における動詞の分類	343
佐藤 寛：「国民的出稼ぎ現象」の社会・経済的影響 ——北イエメンの20年——	369

17巻3号

清水 昭俊：永遠の未開文化と周辺民族 ——近代西欧人類学史点描——	417
江口 一久：カメルーン北部・フルベ族の挨拶の言語表現	489
チャティップ・ナートスパー：タイにおける共同体文化論の潮流	523
Onuigbo G. Nwoye：An Overview of Igbo Oral Literature	559
Galina V. Zubko：Au sujet de l'origine des Peuls, d'après les légendes	601

17巻4号

Yoshiho Yasugi：An Areal-Typological Study of Phonological Systems of Middle American Indian Languages	627
朝倉 敏夫：現代韓国社会における〈伝統文化〉の研究の現状と展望	809
Dai Qingxia：An Observation on the Genesis and Development of Tibeto-Burman Tones	851

## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のシミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたらうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。

(2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.



論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 17卷4号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

江 口 一 久

崎 山 理

清 水 昭 俊

須 藤 健 一

田 村 克 己

長 野 泰 彦

野 村 雅 一

福 井 勝 義

宮 本 勝

吉 田 集 而

---

平成5年3月31日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 17卷4号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園10-1

TEL 06(876)2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075(441)3155(代表)

---

**Bulletin of the National Museum of Ethnology**  
**vol.17 no.4**  
**1992**

**YASUGI, Yoshiho**

**An Areal-Typological Study of Phonological Systems of Middle American Indian Languages**

**ASAKURA, Toshio**

**The Present Situation and Prospect of the Study of "Traditional Culture" in Modern Korean Society**

**DAI, Qingxia**

**An Observation on the Genesis and Development of Tibeto-Burman Tones**



**National Museum  
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-876-2151

**ISSN 0385-180X**